

心地よい学校図書館をめざして!

福山市立鞆の浦学園



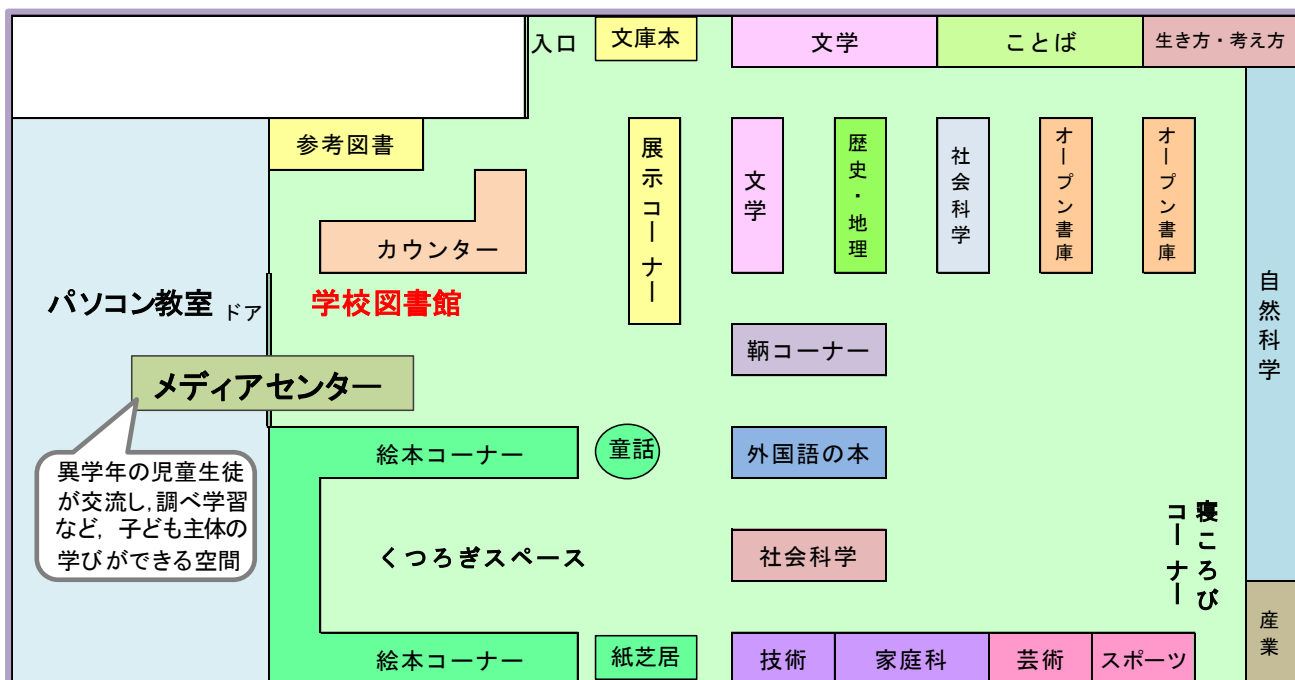
学校図書館からの眺め ～瀬戸内海国立公園を望む～



温かく子供たちをむかえる

本校は、福山市初の義務教育学校として今年4月に開校しました。瀬戸内海国立公園にある「風光明媚」な観光地に位置し、2017年（平成29年）10月に、「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ記憶遺産に、2018年（平成30年）5月には、「瀬戸の夕凧が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～」として日本遺産にも登録されました。そのような恵まれた環境の中で、「図書館に親しみ、読書を通して、人間性豊かな児童生徒を育てる」、「図書館および図書館資料を効果的に活用し、自ら考え、問題を解決する能力を養う」を学校図書館教育の目標に掲げ、子どもたちにとって「心地よい学校図書館」を目指して取組を進めています。

学校図書館配置図



たくさんの人々の思いがこもった学校図書館

児童文学評論家の赤木かん子先生の監修により、 鞆の浦学園の新しい学校図書館が完成しました。4月初めに図書ボランティア等約50名が、鞆の浦学園学校図書館の開館準備をしてくださいました。寄贈等で新たに538冊の本も加わり、本の魅力が伝わる楽しい空間になっています。子ども達が気軽に図書館で読書ができるようにと壁やテーブル、床にまでくつろげる工夫がされています。なにかあったら図書館へ、なにもなくても図書館へと、ちょっと行ってみたいくなるような、心のやすらぐ場所にと、たくさんの方のご協力で準備が進められました。



表紙を見せたレイアウトは、離れた場所からも目をひきつけます。



赤木かん子先生おすすめの「かえる司書」がお出迎え。



ゆったりと楽しめる絵本コーナーです。



人体の本&
ガイコツ

オープン書庫



窓の外には鞆の海が広がり、とても明るい図書館です。これまでと置き場所の変わった本もあります。探している本が見当たらない時は、図書委員や小中一貫教育学校図書館補助員が本を探す手伝いをします。



絵本は、題名順にならんでいます。

高い場所の本を取るときは、キックステップ(ふみ台)が利用できます。



6月4日 開館

待ちに待ったみんなの図書館、開館！

子どもたちが待ちに待った図書館の開館。「わーい！みんなの図書館だ！！」と本を手にする表情が輝いていました。毎日、図書館入り口で貸出時間を待っている子どもたちの姿がほほえましいです。毎日およそ30人の利用があり、貸出時間はいつもにぎやかです。読んだ本をお互いに紹介し合ったり、お気に入りの作者を見つけて、じっくり読みふけったりする姿も見られます。また、図書委員会の子どもたちは貸出当番をしながら、館内の様子にも気を配っています。借り方、返し方のきまりをカウンターに表示することにより、貸出作業がスムーズになるよう工夫しています。



大忙しの図書委員さん



連日、大人気！！



じっくり本を選びます

思い思いに腰かけて



調べ学習にも活用！



会話がはずみます！



読書を楽しむ

鞆の浦学園の図書館は、毎日開館していますが、貸出時間は大休憩と昼休憩になっています。一日あたりの利用人数は、25～33人（全校185名）で、図書館が開館した6月から、連日大人気です。読んだ本から、読みたい本を見つけたり、貸出中の本は予約したりと、読むことを楽しむ姿で賑わっています。

みんなの声が蔵書をつくる！

図書館では児童生徒、教職員に9月末まで本のリクエストを募集しました。予算の範囲内ではありますが、「こんな本があったらいいな」という声を次回の選書に活かしています。

学校図書館の蔵書は、最新のデータがのっている自然科学や社会科学の本、近現代の文学を中心に、手にとって開き、学びにつながる本を、子どもたちの読書の様子やカリキュラムを考慮しながら選んでいます。

たくさん読んでくれることを願っています。

